

とともに、事業の執行においては、日々の地道な業務を通し無駄を明らかにするなど、これを適切に管理し、収支均衡に向け鋭意尽力したいと考えています。

事務局一丸となり理事長を補佐し、陸修偕行社が皆様に信頼され、頼り甲斐のある組織へ成長できるようお願いして参りたいと考えております。

重ねて皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。

編集委員長を拜命して

編集委員長

佐藤 正 陸自78

陸修偕行社の発足という節目の年度に、『偕行』の編集委員長を拜命しました。

前任の柴田編集委員長の下で6年間常勤の編集委員として勤務して参りましたが、前任者同様、陸修偕行社の事務局や各委員会との連携を図るとともに、関係の皆さまのご指導を賜りながら、新たな気持ちで専心努力する所存でございますので、よ

ろしくお願い申し上げます。

『偕行』は陸修偕行社の目的を達成するための重要な情報発信ツールであり、また陸修偕行社を構成する会員のための雑誌でもあります。

陸修偕行社の大きな目的の一つである安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及につきましては、それらの研究内容や成果を、今まで同様、積極的に掲載します。その際、一般の雑誌等とは異なる観点からの『偕行』独自の編集にも心掛けたいと思っております。

会員のための雑誌という点につきましては、会員の皆さまが『偕行』に期待されていることについてアンテナを張り、キャッチボールをしながら、より一層興味を持つて読んでいただける誌面作りに努力します。会員の皆さまには、引き続きご投稿をお願いするとともに、『花だより』『つどい』欄なども是非ご活用ください。短歌、俳句、川柳、漢詩壇の文芸コーナーへの作品の投稿も大歓迎です。

一方、近年、新聞や雑誌といった紙媒体を取り巻く環境は、インターネットの普及などにより極めて厳しい状況にあります。また、陸修偕行

社の財務状況も厳しい状況が続いています。そのため、今年度、課題検討委員会が立ち上げられ、その中で『偕行』の在り方についても検討することになっています。編集委員長も検討委員会のメンバーになりますので、他の委員とともに、これからの時代にふさわしい『偕行』の在り方について、大いに議論を行い、方向性を見出すことができるよう努めたいと思っています。

『偕行』の編集業務については、喜田邦彦さん（陸自66）が残された貴重なノウハウがたくさんあります。今年4月から常勤の編集委員として富樫勝行さん（陸自81）が勤務していますが、二人三脚で、編集の先輩が残してくれた財産を継承し発展させていくことも、後輩の大切な役割であると思っています。

『偕行』は、今年度も隔月発行を継続します。隔月に1回、編集委員会を開催して原稿の審査や校正を行います。経験と見識の豊かな諸先輩のご指導の下、精一杯精進いたしますので、読者の皆さまのご指導ご鞭撻のほどを重ねてお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。